

## 第34回 定通部定期大会

◆ 日 時 2023年7月9日（日）13:00～14:30

◆ 会 場 長崎高教組会館

◆ 出席者 11名（6分会、委任状5分会）

◆ 議 事 （詳細は議案書でご確認ください）

・ 第1号議案 2022年度 決算承認に関する件

・ 第2号議案 2023年度 役員承認に関する件

2023年度 定通部役員

部 長	釣船 明文（島原定時）	副部長	烏山 隆弘（鳴滝夜間）
-----	-------------	-----	-------------



・ 第3号議案 2023年度 方針決定に関する件

### 1 経過報告

①定期大会、②県教研定通教育分科会、③全教定通部総会&全国定通教育学習交流集会、④中四九ブロック定通教育学習交流集会、⑤ゆめおす主催「特別講演会」&実行委員会主催「定時制・通信制高校合同学校説明会」、⑥定時制・通信制教育の充実を求める署名、⑦定通部だより等について報告されました。

### 2 活動方針

今年予定の定通部県教委交渉（2年に1回）の内容について討議。前回の交渉内容を基にした11項目。予約1ヶ月待ちという状況も発生しているSSWについては、配置だけでなく勤務日増や常駐を要求することも確認されました。要求項目について、各分会の具体的な実情等をお知らせいただけるとありがたいです。

#### 県教委交渉の柱（2023年度）

- |  |                        |
|--|------------------------|
| (1) 安易な統廃合反対   | (2) 20人以下学級            |
| (3) 佐世保中央夜間エンカレッジコースを夜間部から分離。施設充実・職員配置し、別課程として新設。        |                        |
| (4) スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーを生徒、 <b>保護者</b> 、職員が利用しやすい環境 |                        |
| (5) キャリアサポートスタッフ継続配置                                     | (6) 教科書・夜食費補助継続と手続き簡略化 |
| (7) 入学準備金等、給付型奨学金の充実                                     | (8) 授業料無償化             |
| (9) 修学奨励資金返還免除の条件「卒業まで」を1年単位に引き下げ                        |                        |
| (10) 日本語を母語としない生徒・介助が必要な生徒のための専門教師・職員を定数外配置              |                        |
| (11) 離島の通信制生徒に交通費・宿泊費の補助                                 |                        |

・第4号議案 2023年度 予算に関する件

・第5号議案 その他

SSW 利用状況、業務の過重負担、介助を必要とする生徒への支援等について各分会の現状や課題等が報告され、情報交換を行いました。

5つの議案は、拍手で承認されました。

## 県教研 定通教育分科会

◆ 日 時 2023年7月9日（日）14:45～16:30

◆ 会 場 長崎高教組会館

◆ 参加者 11名

4本のレポートが報告され、情報共有と学習交流の場となりました。

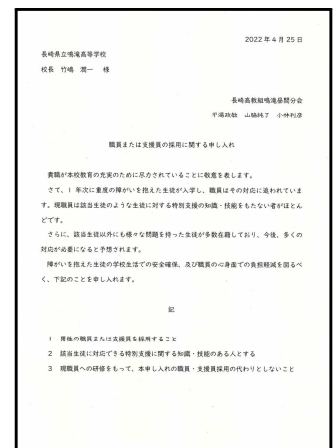
### 1 職員または支援員の採用に関する申し入れ

(鳴滝昼間 平湯さん)

今年度、重度障がいを抱えた生徒が入学。ところが、現職員のほとんどが特別支援に関する専門的な知識や技能を持ち合わせていない。様々な対応に追われることが多く、当該生徒の安全確保、配慮を必要とする他の生徒の指導に手が回らない状況、職員の心身面での負担軽減等、喫緊の課題が多く表出しました。状況の改善を求め、校長への申し入れを4月中に行いました。申し入れの内容は、次の2点です。

①当該生徒に対応できる特別支援に関する知識・技能を持つ男性職員または男性支援員を採用すること。

②現職員への研修をもって、専門職員・支援員採用の代わりとしないこと。



申し入れ書

### 2 生徒会役員による校長交渉

(鳴滝夜間 烏山)

生徒総会で各クラスから出された要望事項を生徒会役員が検討。毎年、基準に則って優先順位をつけ、重点要望事項として校長交渉を行っている。今年は、①虫対策、②アイスクリーム自動販売機の設置を要望した。②については、12ページに及ぶ要望書を交渉の場で生徒会長が校長に手渡している。要望書には、経緯（要望の内容、執行部の対応）や分析結果（メリット・デメリット、学習効果や癒やし効果等の科学的根拠）、他校の実践例等をまとめ、設置に向けて具体的な提案を行った。



校長交渉



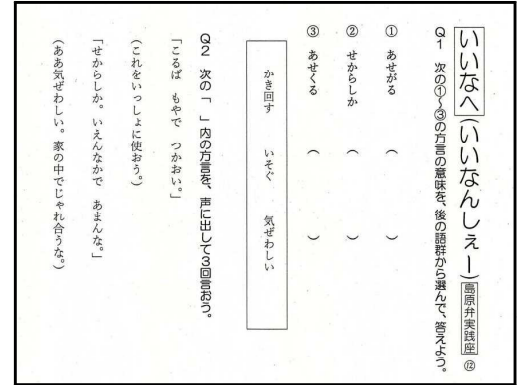
アイスクリーム自動販売機の設置要望書

### 3 方言指導のとりくみ 「いいなへ（いいなんしえー）」

(島原定時 釣船さん)

国語科授業におけるとりくみを紹介。「生まれ島ぬ言葉忘れしいねー、親ぬ顔ん忘れしいん」「生まれ島ぬ言葉忘れね、国忘ゆん」沖縄県の方は、日本人である前にうちなんちゆう。独自の行事も多く、高校生は沖縄が大好き。学校設定科目にも「うちなーぐち」「沖縄の音楽」等がある。

島原の高校生は「島原の子守歌」でさえもメロディーしか知らず、島原弁も通じない。福岡への就職希望が多く、授業で教えない限り、島原弁が消滅してしまうと考え、島原弁実践講座にとりくんでいる。



島原弁実践講座「いいなへ」

### 4 学校と著作権 & 拉致被害者と家族の今

(島原定時 坂下さん)

昨年度、職員研修で発表した2つの取り組みをまとめたレポート。「改正著作権法第35条運用指針」(2020年度版)では、「学校その他の教育機関」で「教育を担当する者」と「授業を受ける者」に対して、「授業の過程」で著作物を無許諾・無償で複製すること、無許諾・無償又は補償金で公衆送信(授業目的公衆送信)すること、無許諾・無償で公に伝達することを認めている。

許諾が必要な場合、オンライン授業の場合、オンデマンド配信、レポート作成のためにタブレットで撮影した資料・情報の保存、学校図書館でCD・DVDの貸し出し、合唱コンクール用歌詞掲載等について、具体的にクイズ形式で報告。

**1 著作物を使用するときに、許諾が必要なものは、どんな場面でしょう?**

入試問題 授業 生徒会活動 学校行事

保護者会 部活動 職員会議

学級活動 学校説明会の模範授業 特別活動

**2 オンライン授業で著作物を使用する場合、許諾が必要です。**

しかし、「授業目的公衆送信補償金制度」により、学校設置者が「授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS サートラス)」に補償金を支払っていれば、許諾不要になります。

高校生一人あたり、いくらでしょう?

**3 学校行事をオンデマンド配信することになりました。気を付けなければならないことはどれでしょう?**

A 視聴期間を設定すること。  
B 視聴期間が終了したら、すぐに消去すること。  
C 保護者に個人情報保護を事前説明すること。

著作権問題 1～3

**【原則】**

教員が児童生徒に対し、**授業をおこなう場合は 許諾不要**

授業とは  
教科・特別活動・学級活動・  
児童生徒会・行事・クラブ・部活動 を指す。

**420円**

長崎県の県立学校は、長崎県が支払い済み。

ちなみに、小学校は120円 中学校は180円

**ABC すべて**

特に保護者に対しては、以下の行動を行わないよう、協力を求める。

URLの他人への拡散  
映像の保存や転送  
画面キャプチャー  
SNSへの転載

✕

解答 1～3

「拉致被害者と家族の今」は、横田拓也さん(拉致被害者横田めぐみさんの弟)と蓮池薫さん(帰国拉致被害者)の講演をまとめた報告。家族会の現状、困難さや辛さ、北朝鮮事情、メッセージ等を紹介。

#### つづやきコーナー

教研レポートは、①校長交渉、②生徒自治、③教科指導、④著作権&拉致問題と多岐にわたります。先生方の取り組みにパワーをいただく学び多い1日となりました。

また、全教定通部長 & 県定通部長として、定通教育に永年ご尽力いただいた濱本功二さんの慰労会も開くことができました。みなさん、ご協力ありがとうございました。



# 全国定通教育学習交流集会 in 北海道

## あきらめない、いそがない、ひとりにしない定通教育

- ◆ 期 日 2023年8月4日(金)～6日(日)
- ◆ 会 場 北海道高教組会館 札幌市中央区大通西12丁目
- ◆ 開催方法 会場と全国をオンラインで結んだハイブリッド開催
- ◆ 参加者 のべ約100名
- ◆ 本県参加者 4名 { ・現地参加 2名 (うち1名は高教組OBの自費参加)  
・オンライン参加 2名



全国の定時制・通信制高校に通学する生徒たちが抱える課題等について情報を共有し、学習を深めました。集会には、教職員の他、生徒、卒業生、保護者、NPO 関係者等が参加しています。

#	プログラム	
1	記念講演	「子どもの貧困と私たちにできること」 大澤 真平 さん (札幌学院大学 人文学部 人間科学科 准教授)
2	特別報告 I	「ソーシャルワークのとらえ方から見える青年の実態」 加藤 高一郎 さん (北海道ヤングケアラー相談サポートセンター センター長)
3	分科会	I 「定時制通信制高校の保健室の実態」
		II 「定通教育の入口と出口」



記念講演 大澤さん (右)



特別報告 I 加藤さん



分科会 II 定通教育の入口と出口

#	プログラム	
4	高校生フォーラム	北海道の高校生 3名
5	特別報告 II	「『不登校』をみんなで考える」 不登校に寄りそう親の会オアシスのみなさん
6	ミニ報告	「労働問題の最新情報！」 東海林 智 さん (毎日新聞 社会部記者)
7	パネルディスカッション	「定通教育はどこへ行く」～北海道の定通教育から考える～
8	しゃべり場	



特別報告Ⅱ『不登校』をみんなで考える



パネルディスカッション



ミニ講演 東海林さん

集会に参加された先生方から内容や感じたことを、画像と共にいただきました。情報等を共有していただけるとありがたいです。

### 前田 祥紀さん（五島定時）

Web 開催のおかげで、二十年ぶりに定通全国集会を覗くことができました。二十年前の定通全国集会で取り上げられていた課題や問題は、不良行為や学校の荒れ、学校三者協議会などだったと記憶しています。

久しぶりに見た集会の課題は「多様性」です。単一民族国家である日本において、「多様性」がクローズアップされてから数年しか経っていませんが、その認知度は急速に拡大しています。学校は社会から切り離されたものであることは良くないことだと思っていますが、現実とはちょっと違っていると感じます。しかし、定通の高校は、その社会と切り離された学校から切り離された、言い方をかえれば排除された者が学ぶために集まった学校でもあります。「裏の裏は表」といったように、定通の学校はより社会に近く、その社会問題の影響を大きく受けている生徒が集まるところだと思います。日本語を母国語としない生徒、不登校を経験した生徒、身体的あるいは精神的な障害を抱えた生徒、LGBTQ+の悩みを抱えた生徒といった多様な生徒が定通の学校には集まっています。今回の教育全国集会は、これらについてたくさんの実践報告がありました。これらの実践報告や意見を、私自身の実践が時代の潮流にのっているか、それは正しい教育実践なのかを確認する材料としていきたいです。

最後に、この集会で一番印象に残っている言葉を記します。定時制高校に必要なことは、生徒が安心していられ、他者の承認を得られる場であることです。不登校だった子は「独り」でもいられる。でも、学校に行けば「誰かに会える」「ほかの人と関わりを持てる」。これって大切なことですよね。



パネルディスカッション



2023年度全国定通教育学習交流集会が8月4日から3日間、札幌市の大通り公園横にある北海道高教組会館で開催され、長崎県からは島定の釣船明文と高教組OBの濱本功二さんが参加しました。

1日目の記念講演「子どもの貧困と私たちにできること」の講師は、札幌学院大学大澤真平さんでした。「生活に困っている生徒ほど通院を我慢し、資格検定や部活をあきらめ、友達の誘いを断る」傾向にあるという調査結果が示されました。日本では子どもにとって必要なものを少なく見積もる傾向があり、子育ては家族がするものという意識が根強く残り、「家族依存型」福祉政策が子どもの貧困問題の解決を難しくしているという指摘がなされました。

2日目は、午前中に特別報告Ⅰと分科会が行われました。特別報告Ⅰは、北海道ヤングケアラー相談サポートセンターの加藤高一郎さんの報告でした。「ヤングケアラーの多くは大人と同じように、家族の一員としての役割を果たすべく、強い責任感で動いているので、頭ごなしに本人の行動を否定してはうまくいかない」、「大人が気づいて見守り、支援に踏みきるかどうかの見極めが大事」ということでした。分科会「定通教育の入り口と出口」では、統廃合の進む全国の定通制高校の実態が報告され、近年増加傾向にある「日本語を母語としない生徒」の支援の課題が明らかにされました。

2日目の午後からは、高校生フォーラム、特別報告Ⅱ、ミニ報告が行われました。高校生フォーラムには、北海道の定時制高校生2名と通信制高校生1名が参加しました。全員が3年生か4年生で、入学後に自分自身が変わったこと、定通制高校に入学してよかったこと、日ごろ不満に思っていることなどを本音で語りました。特別報告Ⅱは、「不登校に寄りそう親の会オアシス」からの報告でした。3名の保護者が子育て経験を語りましたが、その中でHSP(高度に感性のある人)・HSC(高度に感性のある子ども)の話は、初めて耳にする内容だったので、興味深く聞きました。世界中どの国でも人口の約20%はHSPであり、HSCの子どもは不登校になりやすいということでした。ミニ報告は、毎日新聞記者東海林智さんからの報告でした。これまでの今学習会の議論の経過を踏まえて準備されていたレジュメとは違う内容になりましたが、政権与党が経団連の意を迎えて、非正規労働者を大量の生み出す政策をとった結果、消費者の購買意欲も抑えられ内需が低迷し、日本経済は長期にわたって低迷している、現在では最低賃金の額でも韓国を下まわるようになってしまった、この状況を打破するには政権交代しかないというものでした。このあと夕食交流会が開かれ、ジンギスカン料理を食べながら親睦を深めました。

3日目は、パネルディスカッション、しゃべり場が開催されました。パネルディスカッション「定通教育はどこへ行く」では、まず北海道各地の定時制通信制高校からの報告がありました。北海道でも人口減少と少子化のため高校の統廃合が進められており、定時制通信制高校もその例外ではありません。そのため生徒の通学区が非常に広がっているということでした。家庭訪問をするにも1日がかかりになってしまい、同僚の先生が運転する車の助手席に乗っていて、片道だけでネットフリックスの映画を3本見たという話もありました。しゃべり場では、全国の定通教育の現状が報告されました。最後に、様々な問題を抱えた多様な生徒が入学してくる状況の中で、「あきらめない、いそがない、一人にしない定通教育」の重要性を確認して閉会しました。



本県からの参加者